

登録コード	E2015900	開講年度	2026				
授業科目	近代文学演習					担当教員	藤原 崇雅
英文授業名	Japanese Literature Seminar					副担当	
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	月曜・2時限 月曜・5時限	対象学生	3-4年生
講義室	教育M402 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	日本近代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を自身で述べるようになる。研究発表を伝わりやすいかたちで行えるようになる。他の受講生の意見に対し、自身の意見を述べ、討論することができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	発表対象作品についての発表と討論を通して、受講者の関心領域に含まれる課題を明らかにし、研究対象への理解を深めていく。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス（授業テーマの選択、発表日程の決定、研究関心の紹介） 第2回：近現代文学研究の方法①（研究史の紹介と研究対象の決定） 第3回：近現代文学研究の方法②（図書館ガイダンス） 第4回：近現代文学研究の方法③（資料調査の方法）※遠隔等 第5回：近現代文学研究の方法④（理論援用の方法）※遠隔等 第6回：近現代文学研究の方法⑤（発表資料の作成方法） 第7回：近現代文学研究の方法⑥（プレゼンと質疑応答の方法） 第8回：発表準備進捗状況報告会、レポート作成の方法、模擬発表 ※遠隔等 第9回：ブックトーク、読書会、映画観賞会 第10回：受講者による研究発表と議論① 第11回：受講者による研究発表と議論② 第12回：受講者による研究発表と議論③ 第13回：受講者による研究発表と議論④ 第14回：受講者による研究発表と議論⑤、授業アンケート ※教育実習等を理由とした欠席分については、欠席者と相談の上、補講を行う。						
(6)成績評価の方法	1. 授業の達成目標1の「他の受講生の意見に対し、自身の意見を述べ、討論すること」に関する達成度を測るため、毎回の授業で実施する授業の小テストおよび振り返り（eALPS）：30点 2. 授業の達成目標1の「日本近代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を自身で述べること」に関する達成度を測るための学期末レポート：10点 3. 授業の達成目標1の「日本近代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を自身で述べること」に関する達成度を測るための研究発表：60点 合計100点						
(7)成績評価の基準	秀：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を高度に述べ、学期末レポートに高度にまとめられている。また、他の受講生の意見について、討論が高度に行えている。 優：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を正確に述べ、学期末レポートに正確にまとめられている。また、他の受講生の意見について、討論が正確に行えている。 良：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見をおおよそ述べ、学期末レポートにおおよそまとめられている。また、他の受講生の意見について、討論がおおよそ行えている。 可：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知り、それを活用して新規の知見を一部述べ、学期末レポートに一部まとめられている。また、他の受講生の意見について、討論が一部行えている。 不可：日本近現代文学のさまざまな研究方法を知ることができておらず、それを活用して新規の知見を述べられておらず、学期末レポートにまとめられていない。また、他の受講生の意見について、討論が行えていない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：自身の演習発表の準備を行うこと。また、他の受講生の発表対象作品や読書会の対象作品を読了すること。 事後学習：自身の発表内容をレポートにまとめるための準備をすること。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	授業中は、受動的に授業を受講するのではなく、個人追究やグループワークなどの言語活動に主体的に参加すること。また、授業前後に必要な学習を相当時間数行うこと。 ※本授業は出席しているだけでは単位は認定されない。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましいが、個人的な相談・質問がある場合はメールにて受け付ける。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 【藤原】研究室：中校舎4F 407 内線番号：4077 アドレス：fujiwara_takamasa@shinshu-u.ac.jp						

【教科書】	授業内で適宜指示する。
【参考文献】	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版、共立出版、2017 酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』第2版、共立出版、2018 上記のほか、授業内で適宜指示する。